

2 . 統計でみる三田市の健康状況

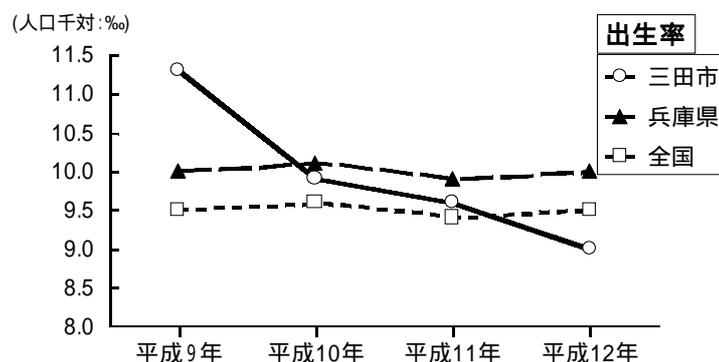
(1) 出生の状況

出生数・率

三田市の出生率は減少傾向にあり、平成9年には兵庫県や全国をやや上回っていましたが、平成12年には、全国や兵庫県を下回ります。

出生率 = 年間の出生数 ÷ 人口(その年の10月1日現在) × 1000

図表 . 出生数・率 (率 / 人口千対)



項目 年次	三田市		兵庫県		全国	
	出生数	出生率(‰)	出生数	出生率(‰)	出生数	出生率(‰)
平成9年	1,181	11.3	53,356	10.0	1,191,665	9.5
平成10年	1,074	9.9	54,421	10.1	1,203,147	9.6
平成11年	1,073	9.6	53,765	9.9	1,177,669	9.4
平成12年	1,015	9.0	54,455	10.0	1,190,547	9.5

資料：兵庫県「保健統計年報」

合計特殊出生率

合計特殊出生率は全国的にみても大きく減少しており、兵庫県や三田市においても同様の傾向がみられます。三田市では、平成2年、平成7年ともに1.56と兵庫県や全国を上回る水準でしたが、平成12年には1.38に減少しています。

合計特殊出生率 = (母の年齢別出生数 ÷ 年齢別女子人口) 15歳から49歳までの合計
15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとした時の平均子ども数に相当する。

表．合計特殊出生率

	三田市	兵庫県	全国
平成 2 年	1.56	1.53	1.54
平成 7 年	1.56	1.41	1.42
平成 12 年	1.38	1.38	1.36

資料：兵庫県「保健統計年報」

低出生体重児（2500g未満）の出生数・率

三田市では、毎年100名前後の低出生体重児が出生しており、三田市の全出生数の約9%を占めます。

表．低出生体重児の出生・率

項目 年次	三田市		兵庫県	
	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)
平成 9 年	93	7.9	4,107	7.7
平成 10 年	103	9.6	4,380	8.0
平成 11 年	97	9.0	4,437	8.3
平成 12 年	96	9.5	4,616	8.5

資料：兵庫県「保健統計年報」

(2) 死亡の状況

死亡数・率

三田市の死亡率は、兵庫県や全国を下回る水準で推移しています。

表．死亡数・率（率／人口千対）

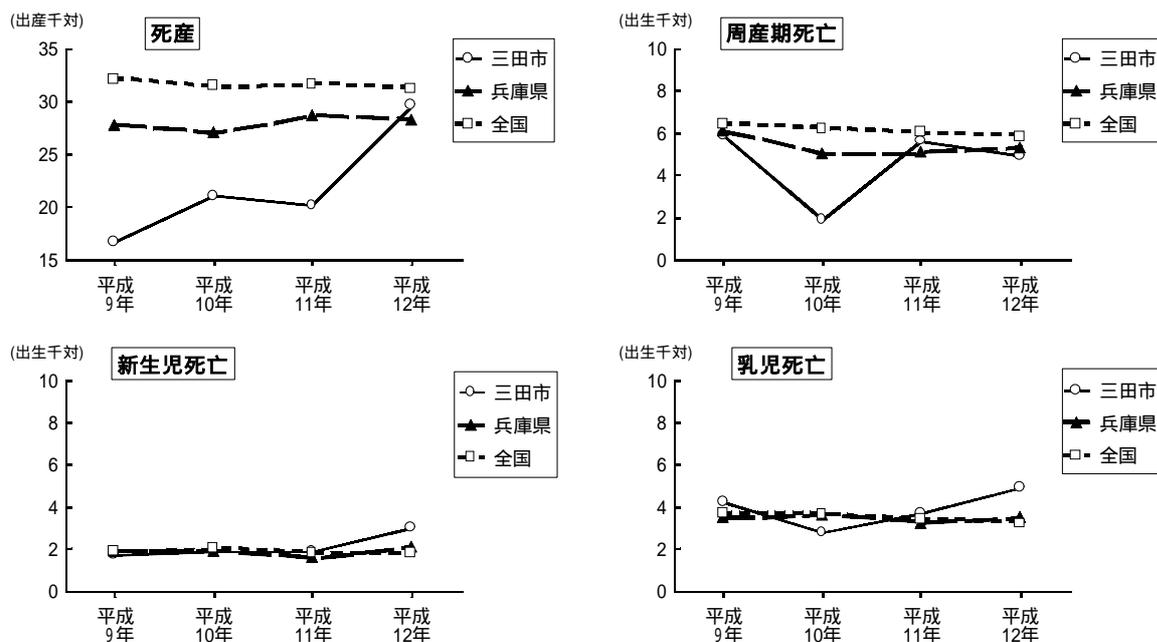
年次	三田市		兵庫県		全国	
	死亡数	死亡率(‰)	死亡数	死亡率(‰)	死亡数	死亡率(‰)
平成9年	476	4.5	39,797	7.4	913,402	7.3
平成10年	539	4.9	40,931	7.6	936,484	7.5
平成11年	515	4.6	41,965	7.8	982,031	7.8
平成12年	564	5.0	41,724	7.6	961,653	7.7

資料：兵庫県「保健統計年報」

死産率、周産期死亡率、乳児死亡率、新生児死亡率

死産率は、出生数の減少にもかかわらず、やや増加傾向がみられますが、全国および兵庫県と比較すると低いといえます。周産期死亡率は、概ね全国や兵庫県を下回る水準で推移しています。また、新生児死亡率および乳児死亡率については、平成12年にやや増加するものの、概ね全国および兵庫県と同じ水準で推移しています。

図．死産率、周産期死亡率、乳児死亡率、新生児死亡率



資料：兵庫県「保健統計年報」

死因別死亡状況

死亡原因として最も多いものは悪性新生物（がん）であり、その割合は増加傾向にあります。さらに、心疾患、脳血管疾患による死亡も多く、これら生活習慣病に関連した死亡が半数以上を占めます。

壮・中年期（31歳～64歳）においては、生活習慣病に関連した死亡が全死亡の68.3%を占めることから、壮・中年期からの生活習慣病対策が重要と考えられます。

表．三田市主要死因

	平成10年			平成11年			平成12年		
	死 因	件数	割合(%)	死 因	件数	割合(%)	死 因	件数	割合(%)
第1位	悪性新生物	150	27.8	悪性新生物	147	28.5	悪性新生物	183	32.4
第2位	心疾患	93	17.3	心疾患	89	17.3	心疾患	101	17.9
第3位	脳血管疾患	61	11.3	脳血管疾患	71	13.8	肺炎	55	9.8
第4位	肺炎	61	11.3	肺炎	67	13.0	脳血管疾患	52	9.2
第5位	自殺	24	4.5	不慮の事故	18	3.5	不慮の事故	31	5.5
第6位	不慮の事故	21	3.9	自殺	12	2.3	自殺	14	2.5
総 数	5 3 9 件			5 1 5 件			5 6 4 件		

資料：兵庫県「保健統計年報」

表．(再掲) 壮・中年期の主要死因 - 平成12年 -

	平成12年		
	死 因	件数	割合(%)
第1位	悪性新生物	64	56.1
第2位	心疾患	11	9.6
第3位	自殺	10	8.8
第4位	不慮の事故	8	7.0
第5位	肺炎	3	2.6
第5位	脳血管疾患	3	2.6
総 数	1 1 5 件		

資料：兵庫県「月別死亡原因一覧表」

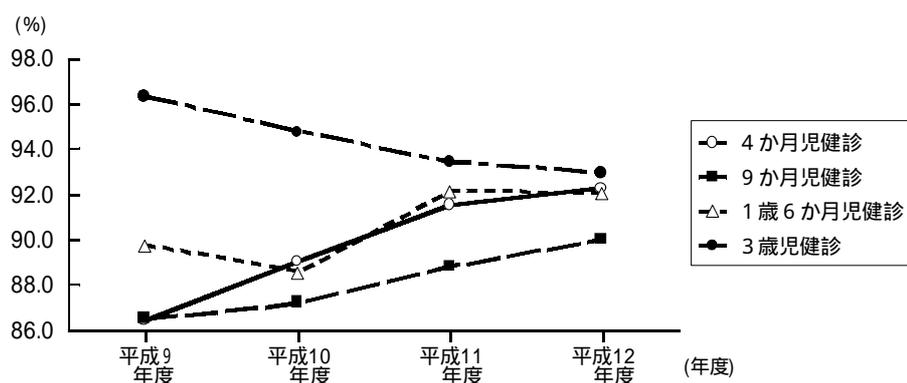
(3) 健診の状況

乳幼児健康診査の状況

乳幼児健康診査は、乳幼児の発育・栄養状態・運動機能・精神発達の状況を観察することで、疾病の早期発見に努め、子どもの健やかな発達と保護者の育児を支援することを目的に実施しています。

3歳児健診の受診率に減少傾向がみられるものの、3歳児健診以外の健診受診率は概ね増加しています。

図。乳幼児健康診査受診率の推移



表。乳幼児健康診査実施状況の推移

年度	4か月児健康診査			9か月児健康診査			1歳6か月児健康診査			3歳児健康診査		
	対象者	受診者	受診率(%)	対象者	受診者	受診率(%)	対象者	受診者	受診率(%)	対象者	受診者	受診率(%)
H 9	1,188	1,027	86.4	1,204	1,041	86.5	1,248	1,120	89.7	1,483	1,404	96.3
H 10	1,096	975	89.0	1,190	1,083	87.2	1,257	1,113	88.5	1,393	1,319	94.7
H 11	1,124	1,028	91.5	1,148	1,019	88.8	1,221	1,124	92.1	1,384	1,292	93.4
H 12	1,019	940	92.2	1,058	952	90.0	1,151	1,059	92.0	1,354	1,258	92.9

資料：健康福祉課

健康診査の状況

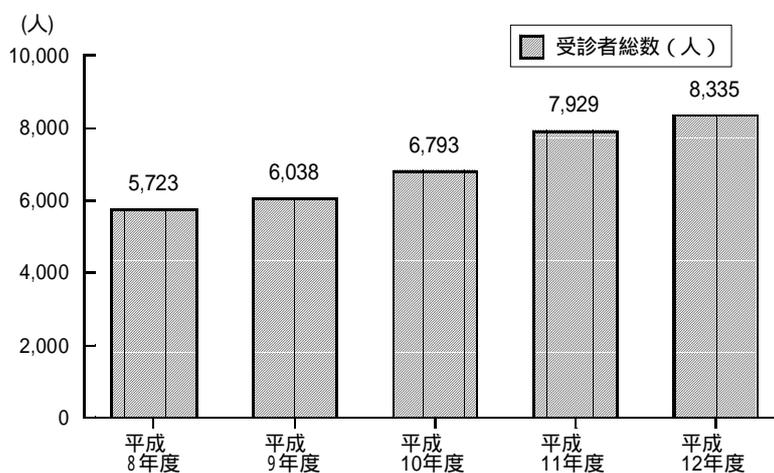
心臓病や脳卒中、がん等の生活習慣病の予防並びに早期発見、早期治療により、壮年期からの健康管理と高齢期の健康保持に役立てるために必要な各種健康診査を実施しています。

基本健康診査（市民総合健診と誕生日健診）の受診者数は増加傾向にあります。

表．実施している健康診査

基本健康診査	がん検診	骨粗しょう症検診
<ul style="list-style-type: none"> ・市民総合健診（集団） 対象：30歳以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・肺がん検診（結核検診）（集団） 対象：30歳以上（18歳以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象：30歳以上の女性
<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日健診（個別） 対象：40歳以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・胃がん検診（集団）対象：35歳以上 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診（集団）対象：40歳以上 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・前立腺がん検診（集団）対象：50歳以上 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん検診（個別）対象：30歳以上 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮がん検診（個別）対象：30歳以上 	

図．基本健康診査の受診者数の推移



資料：健康福祉課